

ぼくのご朱印帳

天王小・4 塩澤 玄

「ご朱印をお願いします。」

ぼくが、ご朱印をもらう時の言葉です。

ご朱印とは、もともと自分で書き写したお経を、おさめたあかしにもらっていたものです。

でも、いつの間にかお経をおさめなくてもお参りをしたあかしにも見えるようになりました。ご朱印をもらうのは神社やお寺の神様とさずなが結ばれたということだそうです。

ぼくがご朱印をあつめるようになったのは、新型コロナウイルスがはやり始めたころからです。学校が休みになったり、自由に出かけられなくなったりした時に、豊川いなりにお参りをしました。早くコロナがなくなるようにお願いをして、初めてご朱印をもらいました。その時に、ご朱印帳を買ってもらってもっとたくさん集めたと思ったのがきっかけです。最近、少しずつ出かけられるようになってきて、神社やお寺に行けるようになって、ご朱印帳がうまくなってうれしいです。

ぼくの自まんのご朱印は、岐阜城でもらったご朱印です。このご朱印は、和紙に岐阜城と書いてあります。三つのご朱印がおしてあって、一つ目は織田家の家もん、二つ目は信長が使っていた印、三つ目は信長の旗印です。ぼくは、三つ目の信長の旗印が気に入っています。昔の永楽通宝というお金の印だと教えてもらいました。む

ずかしい漢字が書いてあってかっこいいなと思いました。

岐阜城は山のちよう上にあつて、石でできた階段をたくさん登らないと行くことができません。つらい思いをして行ったことも思い出にのこっています。

ご朱印には、たくさん種類があります。ぼくがもらったものの中で、めずらしいと思ったのは、豊川の砥鹿神社でもらったご朱印です。このご朱印は、夏げん定の物で、紙ではなくプラスチックです。ご朱印がすけて見えます。花火と山が描かれていてとてもきれいです。砥鹿神社には他にも金や銀のご朱印があったり、季節げん定のものもあつたりして、集めていくのが楽しいです。

もう一つは、京都の仁和寺のご朱印です。このご朱印は、切り絵のようになっています。はすの花やお寺のとうが切り絵になっていてとても細かく作られているご朱印です。デザインがとてもきれいで、もらった時に感動しました。

ご朱印のすごいところは、季節や行事によつて種類があつたり、げん定の物があつたりするところです。目の前でご朱印を書いてもらえる所もあります。その場所でもらえないところも特別に感じます。

ぼくは、ご朱印をもらうと、その場所の神様とあいさつをしながらつたような気持ちになります。ご朱印が一つずつふえていくたびに、いろいろな場所の神様と知り合いになれた気がしてとてもうれしく思います。ご朱印帳をわたして、目の前で書いてもらう時はドキドキします。ご朱印帳を書く人は、きんちようしないのかな、たくさん練習するのかなと思いました。

ぼくのご朱印帳には、今、三十二個のご朱印があります。愛知県、

静岡県、岐阜県、京都府と少しずつふえてきました。遠くの神社やお寺、お城のご朱印ももらえるようになってきました。まだまだ行ったことのない県や場所がたくさんあります。これからもっと出かけられるようになったら、ご朱印帳がいっぱいになるくらいに集めたいです。